

# 北海道防災会議 地震火山対策部会 地震専門委員会

## 【第 1 回】 津波浸水想定設定ワーキンググループ

**議事（2）：津波浸水想定の計算手法・条件等について**

令和4年10月19日（水）

# 1. 計算手法・条件等の比較

## 津波浸水想定条件設定の比較

※各種条件設定は、北海道日本海（H29.2公表）、北海道太平洋沿岸（R03.7公表）と同様に津波浸水想定の設定の手引き（国交省）に準拠して実施。

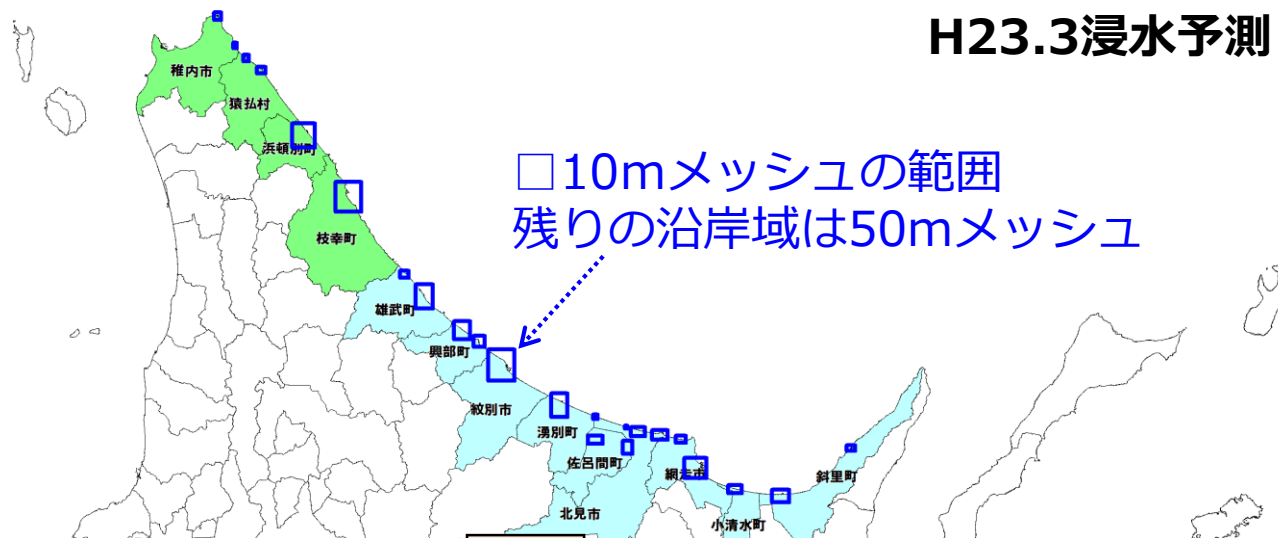
| N<br>O | 項目             | H23.3の計算手法等               | 津波浸水想定の設定の手引き                                         | 今回の計算手法等 |
|--------|----------------|---------------------------|-------------------------------------------------------|----------|
| A      | マニュアル          | 津波高潮ハザードマップマニュアル（H16）     | 津波浸水想定の設定の手引きv2.10（国交省H31.4）                          | 同左       |
| B      | 計算格子間隔※        | ・市街地のみ：10m<br>・その他沿岸域は50m | ・沿岸域はすべて10m格子                                         | 同左       |
| C      | 構造物条件の設定※      | 施設あり（全て機能）<br>施設なし（全て破壊）  | 地震発生と同時に<br>コンクリート構造物は破壊<br>盛土構造物は75%沈下し、<br>津波越流時に破壊 | 同左       |
| D      | 地震動による地盤変動の扱い※ | 地震による<br>陸域の沈降・隆起を考慮      | 地震による陸域の沈降は考慮、隆起は考慮しない。                               | 同左       |
| E      | 基準水位※          | 未設定                       | 津波浸水想定に基づく浸水深に建物等への衝突によって生じる津波の水位上昇（せき上げ）を加えた水位       | 同左       |



# H23.3津波浸水予測図との違い

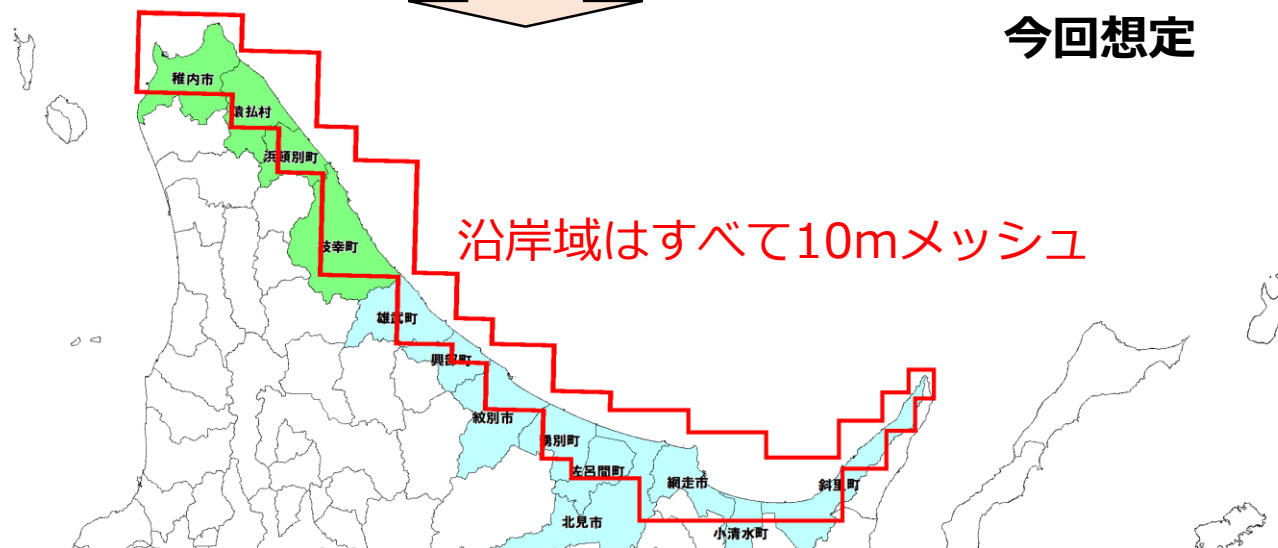
## 計算格子間隔（データの分解能）

### H23.3浸水予測



津波浸水想定の設定の手引きに準拠し、沿岸全域を10mメッシュの高分解能にて想定を実施

### 今回想定

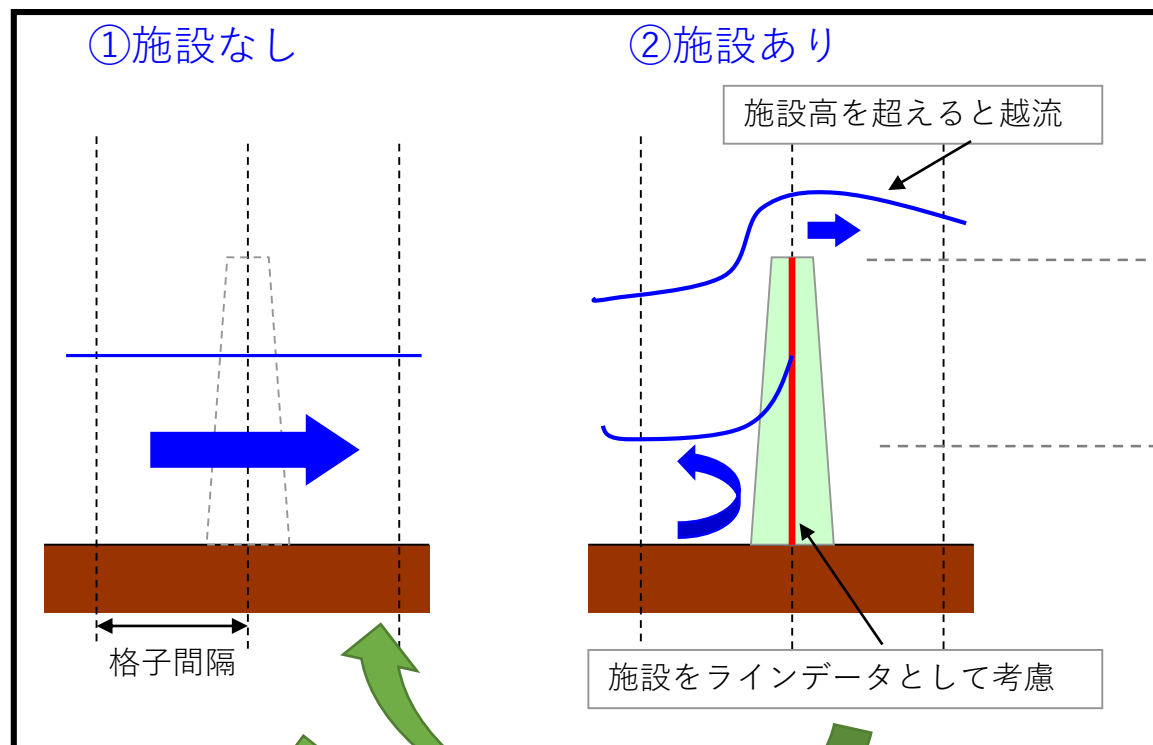


沿岸域はすべて10mメッシュ



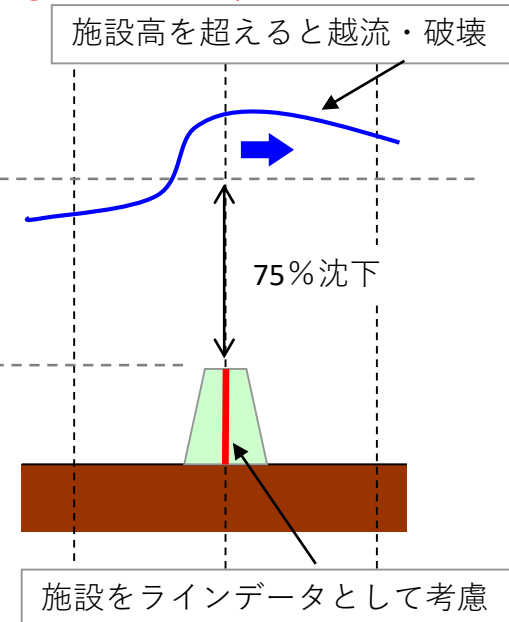
# 構造物条件の設定

## ↓H23.3津波浸水予測図の構造物条件の考え方①②



## 今回の構造物条件の考え方 構造種別・耐震性や越流時破壊考慮 ③④⑤

### ③施設あり（沈下・越流時破壊）



### ④地震により倒壊

- ・地震発生と同時に倒壊（コンクリート構造物）
- ・倒壊後の形状は「無し」

### ⑤越流後破壊

- ・津波越流までは施設あり条件（河川堤防等の盛土構造物）
- ・越流破壊後の形状は「無し」



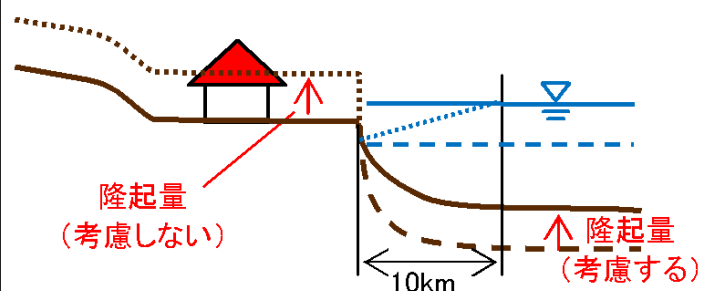
# 地震動による地盤変動の扱い

海域の隆起・沈降および陸域の沈降については考慮する。

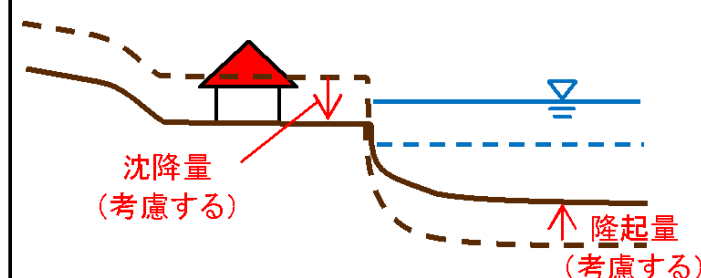
陸域の隆起域は隆起しない（陸域は、沈下のみ考慮）として取り扱う。

## 陸域が隆起し、海域が隆起した場合

※陸域の隆起量をゼロとし、海岸からの距離が 10km の範囲で海底の隆起量を低減してスムーズに接続。

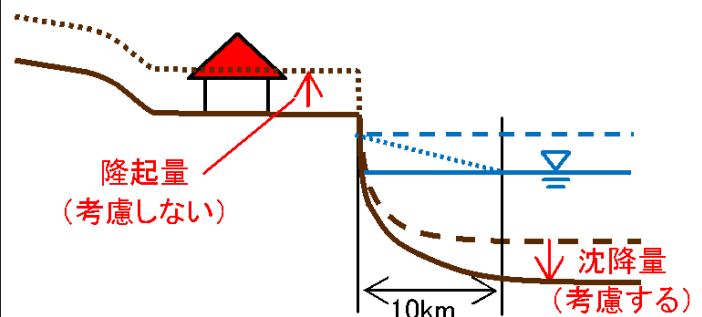


## 陸域が沈降し、海域が隆起した場合



## 陸域が隆起し、海域が沈降した場合

※陸域の隆起量をゼロとし、海岸からの距離が 10km の範囲で海底の沈降量を低減してスムーズに接続。



## 陸域が沈降し、海域が沈降した場合

